

佐内と供養碑

匠 探訪

— 54 —

水戸藩諸生派市川勢の指揮官・市川三左衛門をかくまった大木佐内(左内ともいいう)について、最近調査に見えた人がありました。

1867年(明治元年)11月19日(旧暦10月6日)、「八日市場・松山戦争」と言われる水戸藩の天狗党と諸生派市川勢の内部抗争がありました。この戦いで戦死者20数名を埋葬したのが中台(匠磋地区)の脱走塚(水戸藩士の墓)で、140年以上にわたり地域の人々が守り続けています。地元からこの戦いに加わった

者はいませんでした。高野村(現在は一部が横芝光町に編入)に住んでいたという大木佐内は、戦死を免れた市川をかくまい、助けたとされます。このとき佐内29歳、市川は52歳だったといひ、後に佐内がともに転戦したと語ったことから両者は知り合いだったのかも知れません。戦いは午後2時ごろには終わったよううで、つるべ落としの秋の夕暮れに、市川は天狗党による厳しい探索が続く中、佐内をたずねたといひます。

村人の密告があり、市川は



林千之さんにより昨年11月に建てられた供養碑

ほどなくして東京に行つたものの捕らえられ、4か月後に水戸で処刑され、佐内もかくまった罪で水戸で厳しい取り調べを受けた後

釈放されました。

佐内はその後、八日市場町で「文武館」という私塾を開き子弟の教育にあたり、88歳の生涯を終えたといひます。

140年目にあたる平成20年秋には脱走塚で水戸市などから集まった諸生派子孫らによる慰霊祭が行われ、昨年11月にも水戸市の「幕末維新水戸有志を偲ぶ会」の一行が本市の史跡脱走塚、福善寺などをめぐりました。その際、今泉の長泉寺霊園にまつられた「水戸浪士の墓」もお参りしました。これは今泉地区に伝わる「きられ様」にちなみ、同地区の関係者の協力と林千之さんが独力で供養碑を建てたもので、碑陰には「水戸の為に戦い敗れ 長泉寺」と刻まれています。

水戸からの一行は、ここで亡くなったかもしれないそれぞれの先祖に思いをほせ、林さんの建碑に深く感謝していました。2年続けて水戸市から関係者の来訪を受け、地域の人たちが手厚く守る「脱走塚」と「水戸浪士の墓」、そして大木佐内のことは、これからも語り継がれることでしょう。

問 八日市場図書館 ☎ 73・3746